

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	下田市の歴史情緒あふれる街なみの形成															
計画の期間	平成30年度 ～ 令和4年度（5年間）					交付対象	下田市									
計画の目標	大目標：旧下田町の歴史や文化を感じる、散策して楽しいまちづくり 小目標①：歴史的風致を向上させて、歴史や文化を感じる空間をつくる 小目標②：駅やバス停、主要幹線道路から旧下田町中心部に人を呼び込む															
定量的指標の定義及び算定式							定量的指標の現況値及び目標値			備考						
							当初現況値	中間目標値	最終目標値							
							(H30当初)	(R2年末)	(R4年末)							
①	地区内の主要3施設（了仙寺、宝福寺、開国下田博物館）年間入館者数の増加						108,000人/年	-	112,000人/年							
地区内の主要3施設（了仙寺、宝福寺、開国下田博物館）年間入館者数を調査する。																
②	今後も住み続けたいと思う人の増加						58%	-	62%							
「今後も住み続けたい」と思う人の割合（居住意向）を調査する。																
全体事業費	合計 (A+B+C)	139 百万円	A	139 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.00%						
○事後評価の実施体制、実施時期																
事後評価の実施体制							評価委員会開催時期									
・下田市都市再生整備計画事後評価委員会設置要綱に基づき「下田市都市再生事後評価委員会」を2回開催。 委員：学識経験者2人、まちづくり又は行政運営に関して豊かな識見を有する者2人 合計4人 ・下田市都市再生整備計画事後評価委員会設置要綱に基づき「下田市都市再生整備計画事後評価検討委員会検討部会」を2回開催。 委員：企画課政策推進係長、観光交流課観光企画係長、産業振興課地域経済促進係長、生涯学習課社会教育係長							第1回事後評価委員会 令和5年11月24日（金） 第2回事後評価委員会 令和6年3月13日（水） 公表の方法 市ホームページにて公表									
事後評価																
1. 交付対象事業の進捗状況 ○：計画期間中に完成 △：計画期間終了後に完成見込（備考欄に完成予定時期を記入、未定は空欄） —：その他（備考欄に具体的に記入（中止、未実施等）） （計画期間中に他の整備計画に移行したもので、●：本計画の期間中に完成 ▲：本計画の期間終了後に完成見込（備考欄に完成予定時期を記入、未定は空欄））																
交付対象事業																
A 基幹事業																
番号	事業種別	地域種別	交付団体	直接間接	事業主体	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
									H30	R1	R2	R3	R4			
A-1	都市再生整備計画	一般	市	直接	下田市	旧下田町歴史文化散策地区	A=45ha	下田市						80		
A-2	住宅	一般	市	直接	下田市	街なみ環境整備事業（旧下田町地区）	A=44ha	下田市						59		
									合計			139				
B 関連社会資本整備事業 (該当なし)																
番号	事業種別	地域種別	交付団体	直接間接	事業主体	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H30	R1	R2	R3	R4		
									合計			0				
C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付団体	直接間接	事業主体	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H30	R1	R2	R3	R4		
									合計			0				
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考				
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付団体	直接間接	事業主体	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H30	R1	R2	R3	R4		
									合計							

その他関連する事業																	
計画等の名称																	
番号	事業種別	地域種別	交付団体	直接間接	事業主体	道路種別	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
											H30	R1	R2	R3	R4		
											合計	0					
2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況																	
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況						<ul style="list-style-type: none"> 公園事業や既存建造物活用事業などにより、本事業地区を訪れる観光客が「地区内」を散策して楽しめる拠点づくりを進められた。 駐車場整備やまちづくり活動推進事業などにより、車利用者へのアクセス環境の改善や、市民の歴史文化を学ぶ機会を創出し、本事業地における歴史・文化的価値のPRを実施できた。 市民アンケート調査の結果、公園や水辺空間の整備、街なみ環境整備事業による自然・歴史を活かした景観の整備により、満足度が上昇した。 H25年度以降の路線バス利用者の増加と共に、駐車場整備や伊豆急下田駅周辺地区のまちづくりPR事業の効果が間接的に発現したことで、公共交通機関の充実に関する満足度が、上昇した。 											
II 定量的指標の達成状況		指標① 地区内の主要3施設(了仙寺、宝福寺、開国下田博物館)年間入館者数の増加	最終目標値	112,000人/年	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、行動制限が行われていた期間と本事業計画期間が重複したため、最終目標値を下回った。(R04地区内の主要3施設56,152人※市統計データより) 新型コロナウイルス感染症拡大以前のH28～R元年度までの来訪者数から推計し、R4年度入館者数を算出(推計値:89,598人)したが、行動制限が始まる以前から入館者数が減少傾向にあったことも影響し、最終目標値に達しなかったと考える。 しかし、事業実施地区外の類似施設と比較した場合、入館者数の減少率は緩やかな減少に留められたことから、都市再生整備計画事業や関連事業の実施により、最終目標値は達成できなかったものの、一定の好影響はあったと判断する。(地区内の主要3施設の入館者数減少率:毎月6.3人の減少※H28.04～R元.12間の実測値から近似値を算出、類似施設A:毎月24人減少※H29.11～R元.12間の実測値から近似値を算出。※類似施設A:計画地区外に所在する市内の博物館類似施設を選定。) 											
			最終実績値	89,598人/年													
		指標② 今後も住み続けたいと思う人の増加	最終目標値	62.0%	目標値と実績値に差が出た要因												
			最終実績値	51.0%													
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)						<ul style="list-style-type: none"> 「(仮)大工町公園:(現)大工町プレイス」や「(仮)平滑川公園:(現)弁天橋ガードウォーク」において、放置竹林を活用した「竹あかり」のイベントが開催されるなど、イベント時には多くの利用者が集まり、市民アンケート調査の結果から良い評価が得られた。 「しもだ散策はじめるマップ」や「しもだっこマップ」の作成により、旧下田町地区の歩いて楽しい面やまちの歴史文化などを、市民や来訪者に広く知ってもらいきっかけづくりができた。 「下田市空き家バンク制度」による情報提供や「下田市空き店舗活用事業補助金」の活用、空家等の利活用を通じた地域活性化連携協定を締結した民間事業者との取り組みによる効果で、旧下田町内の空家空き店舗等の利活用を図ることができた。 歴史的建造物の修繕等への補助(歴史的風致形成建造物:雑志、平野屋、安直橋、櫛田蔵、草面房)により、良好なまちなみ景観が維持された。 											
3. 特記事項(今後の方針等)																	
<ul style="list-style-type: none"> 街なみ環境整備事業「下田市の歴史情緒あふれる街なみの形成(旧下田町歴史文化散策地区)(計画期間:令和5年度～令和9年度)」を現在事業している。 引き続き空き家バンク制度や空き店舗活用事業補助金の活用や民間事業者の協力を得ながら、空家空き店舗の利活用を図る。 																	